

WebFOCUS 簡易インストールガイド for Windows Version 8.2.07.28

このマニュアルでは、WebFOCUS for Windows 8.2.07.28 と WebFOCUS App Studio 8.2.07.28 のインストール・構成のために必要な作業手順を記載しています。

また、すでにインストールされている WebFOCUS for Windows 8.2.06 および 8.2.07 に対して、バージョン 8.2.07.28 の適用のため、WebFOCUS Reporting Server の更新インストール、WebFOCUS Client の更新インストール、および追加設定に必要な作業手順を記載しています。

必ずご一読の上、必要なトピックを選択し、以下手順に従ってインストールを行ってください。

トピック	対象ユーザ
☐ WebFOCUS Reporting Server の新規インストール	✓ 新規インストールユーザ
☐ WebFOCUS Client の新規インストール	✓ 新規インストールユーザ
☐ WebFOCUS Reporting Server 更新インストール	✓ 更新インストールユーザ
☐ WebFOCUS Client の更新インストール	✓ 更新インストールユーザ
☐ WebFOCUS Client パッチの適用	✓ すべてのユーザ
☐ Tomcat AJP ポートの有効化	✓ WebFOCUS を IIS + Tomcat 構成で利用するユーザ
☐ 通貨記号と日付の日本語表示設定	✓ すべてのユーザ
☐ WebFOCUS の Unicode 構成	✓ WebFOCUS を Unicode 構成で利用するユーザ
☐ ReportCaster の Unicode 構成	✓ ReportCaster を Unicode 環境で使用するユーザ
☐ ReportCaster のレジストリパラメータ設定	✓ ReportCaster 利用ユーザ
☐ Resource Analyzer 日本語パッチの適用	✓ Resource Analyzer 利用ユーザ

-
- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| ❑ オンラインヘルプの構成 | ✓ すべてのユーザ |
| ❑ Hyperstage の無効化 | ✓ 新規インストールユーザ |
| ❑ 既存コンテンツのインデックス化 | ✓ 更新インストールユーザ |
| ❑ WebFOCUS App Studio の新規インストール | ✓ すべてのユーザ（App Studio 利用ユーザ） |

WebFOCUS Reporting Server の新規インストール

【事前確認】

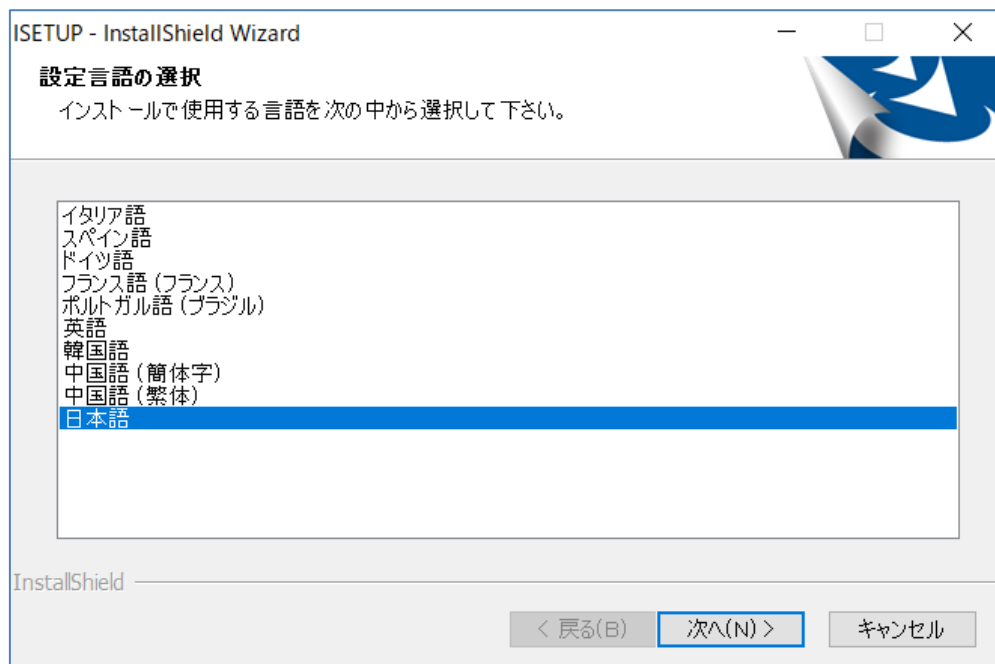
WebFOCUS Reporting Server は下記ディレクトリにインストールします。C ドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストールルートの選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

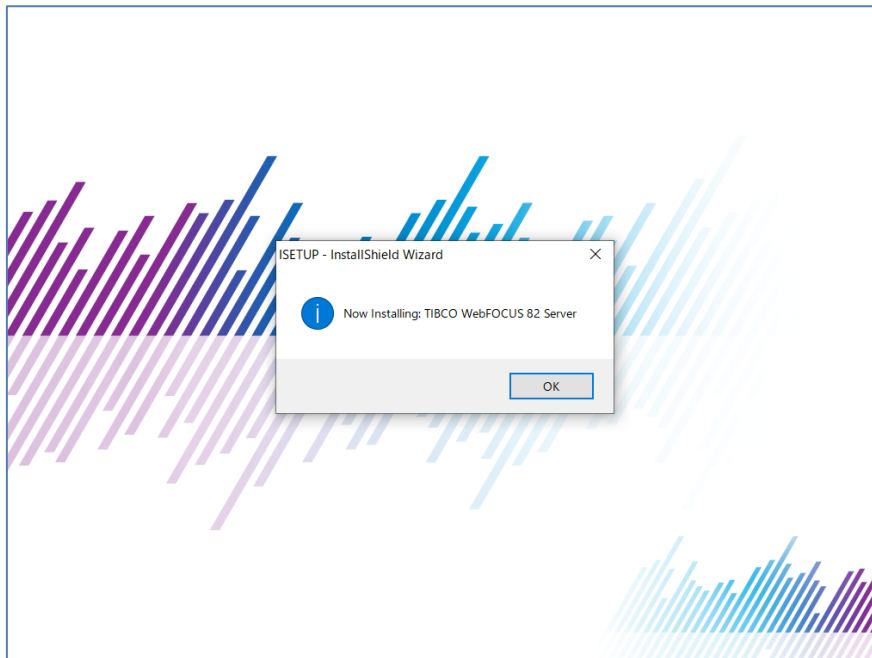
例：C:\ibi\srv82

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server のインストールを行います。

1. IBI¥64bit¥Server ディレクトリにある [setup.exe](#) をダブルクリックします。
2. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「次へ」をクリックします。



3. 下記のような画面が表示された場合は「OK」をクリックし、そのまましばらく待ちます。（数分かかる場合があります）



4. 「使用権許諾」画面が表示されますので、使用許諾契約の条項を確認し、「はい」をクリックします。



5. 初期設定の選択画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
インストールルート	-	C:¥	※要件に合わせて変更可
SMTP メールサーバの構成	チェックしない		
システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成	チェック		
HYPERSTAGE ServerMainHeapSize	-	空欄	※構成の中で Hyperstage は無効化します

初期設定の選択

インストールルートを開く

プログラムフォルダを選択
選択したプログラムフォルダに、プログラムアイコンが追加されます。

プログラムフォルダ: WebFOCUS 82 Server

インストールディレクトリを選択
ローカルインストールのドライブ名とディレクトリ名、またはネットワークインストールのネットワーク共有名とディレクトリ名を選択してください。

セットアップは、インストールルートに ...win82 ディレクトリ構造の親ディレクトリとして使用します。

インストールルート: C:\ 参照(R)

☐ デフォルトディレクトリパスのカスタマイズ

☐ SMTP メールサーバの構成

☒ システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成

HYPERSTAGE ServerMainHeapSize の構成 (オプション)

HYPERSTAGE エンジン用に予約するサイズをメガバイト単位で入力してください。

ServerMainHeapSizeは通常、合計物理メモリの 60 から 80 パーセントに設定する必要があります。バブルログを含む他の Reporting Server プロセスで使用されるメモリは、利用可能なメモリの計算から差し引く必要があります。

合計物理メモリ: 1472
現在利用可能なメモリ: 8004

ServerMainHeapSizeは HYPERSTAGE 構成ファイル (infobright.conf) に格納されます。

HYPERSTAGE ServerMainHeapSize: 1472

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. 初期設定の選択画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
サーバ管理者 ID	-	admin	※要件に合わせて変更可
パスワード	-	admin	※要件に合わせて変更可
HTTP リスナポート	-	8121	
ファイアウォール例外 IP ポートの追加	チェック		

サーバ基本情報の構成

サーバ管理者 ID とパスワード
サーバ内部セキュリティプロバイダ (PTH) の認証情報

サーバ管理者 ID (デフォルト = svadmin): admin

サーバ管理者パスワード: *****

パスワードの再入力: *****

Web コンソールの [アクセスコントロール] オプションを使用して、OPSSYS、LDAP、その他の代替または追加のセキュリティプロバイダを構成してください。

HTTP および TCP/IP サービス

HTTP リスナポート: 8121

サーバの IP ベースサービスを使用する。連続した 7 つのポート番号中 2 つ目の番号です。
HTTPS (SSL) の場合、Web コンソールのワークスペースでリスナのサブタイプから構成します。

☒ ファイアウォール例外 IP ポートの追加

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. 「続行」を選択します



8. 完了画面が表示されますので、「完了」をクリックし、インストール画面を終了します。

以上で WebFOCUS Reporting Server のインストールは終了です。

WebFOCUS Client の新規インストール

【事前確認】

WebFOCUS Client は下記ディレクトリにインストールします。C ドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストール先フォルダの選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS Client インストールディレクトリ】

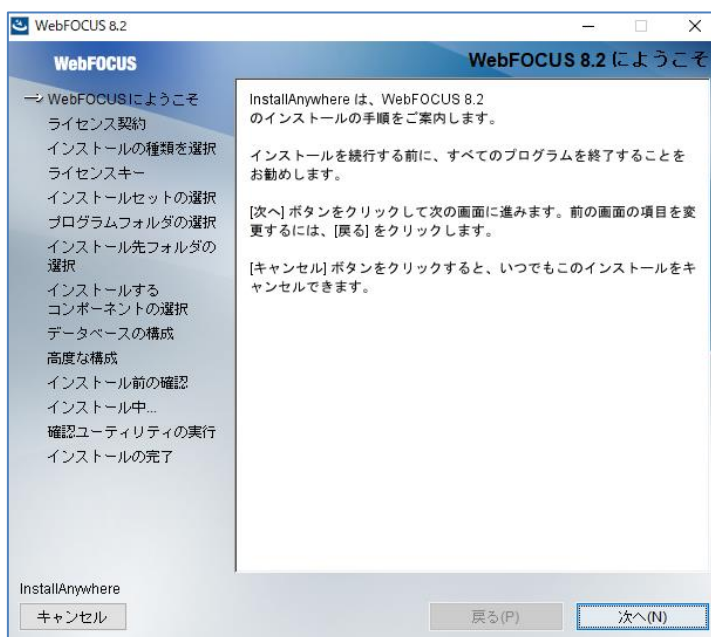
例：C:\ibi\WebFOCUS82

以下の手順で WebFOCUS Client をインストールします

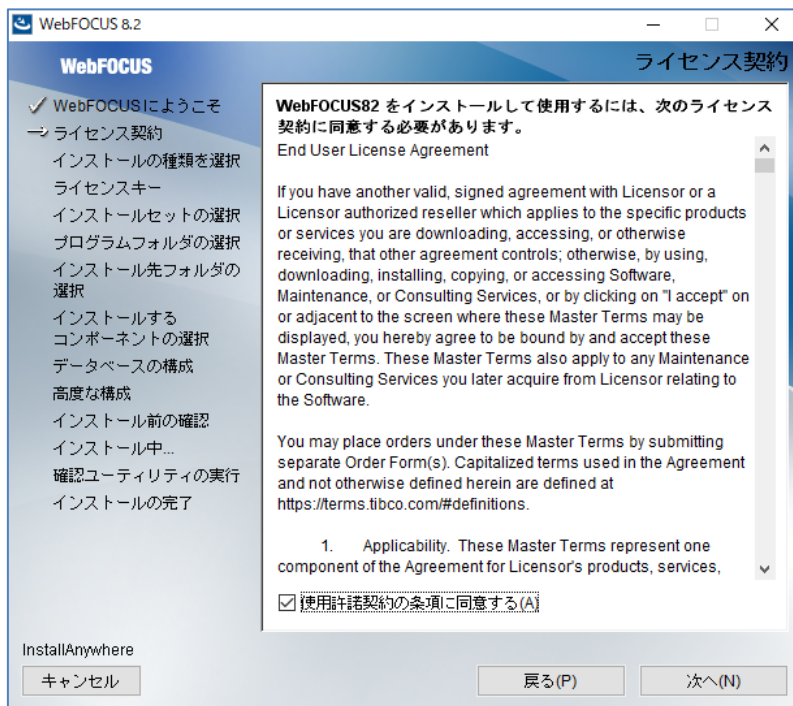
1. IBI\64bit\Client ディレクトリにある TIB_wf-wf_8207.28.13_win_x86_64.exe をダブルクリックします。
2. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



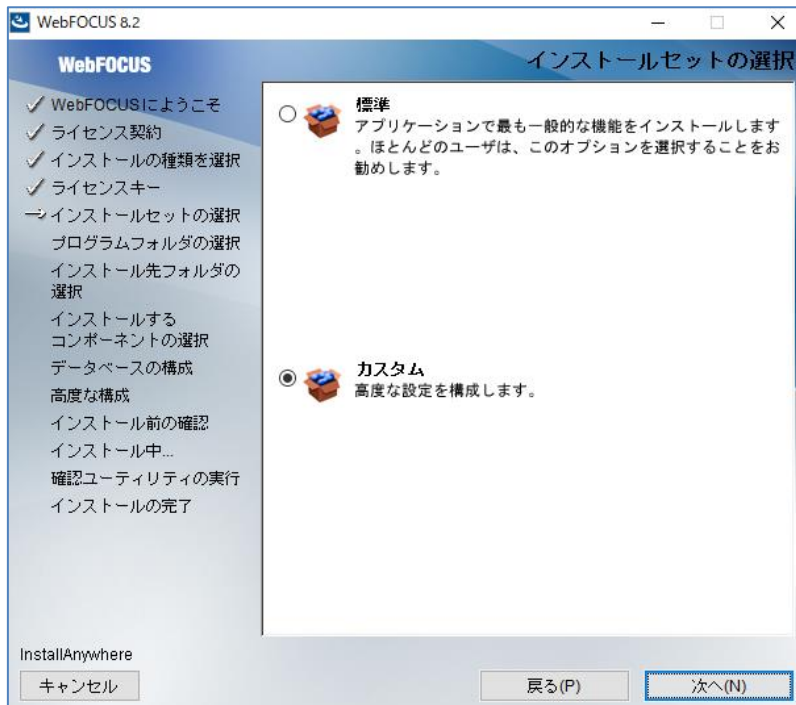
3. 「WebFOCUS 82 によるこそ」画面で、「次へ」をクリックします。



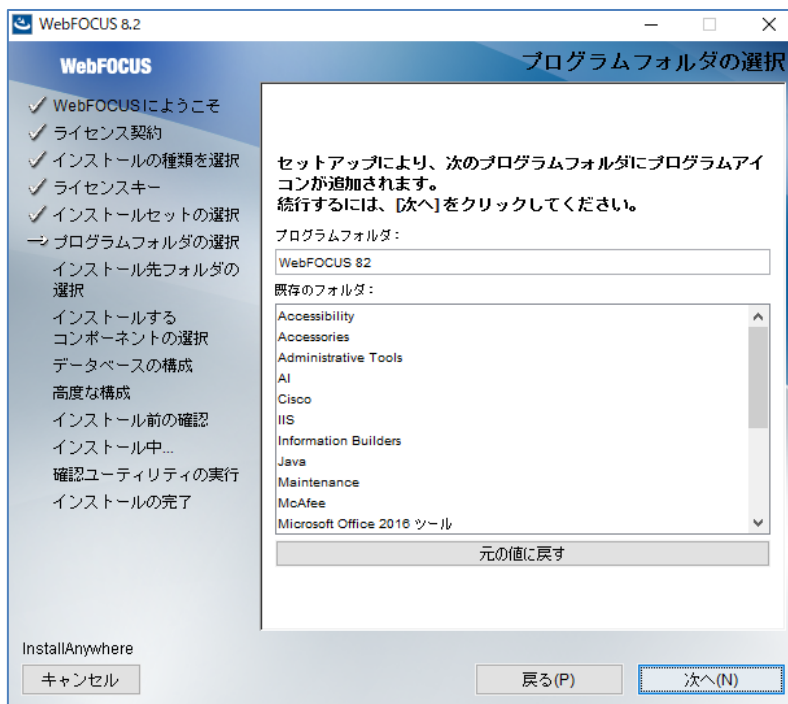
4. 「ライセンス契約」画面で、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



5. 「インストールセットの選択」画面で、「カスタム」のラジオボタンを選択し、「次へ」をクリックします。

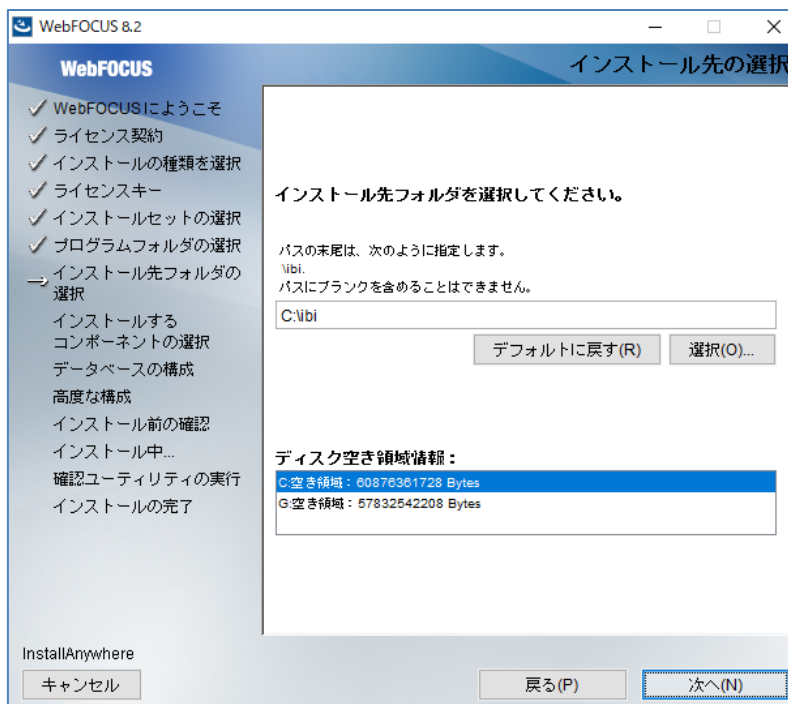


6. 「プログラムフォルダの選択」画面で、「次へ」をクリックします。



7. 「インストール先の選択」画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
インストール先フォルダ	-	C:\ibi	※要件に合わせて変更可



8. 「インストールするコンポーネントの選択」画面で、下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
WebFOCUS	チェック	-	
メールサーバホスト名	-	localhost	※導入環境に合わせて指定
アプリケーションパスの選択	-	C:\ibi\apps	※要件に合わせて変更可
ReportCaster Distribution Server	チェック		※ReportCaster を利用 しない場合は外します
Apache Tomcat	チェック	C:\ibi\tomcat	※要件に合わせて変更可
Derby	チェックしない		※Derby を使用する場 合はチェックし、 C:\ibi\derby を指定
既存データベースの構成	-	使用するリポジトリデータベース を選択	
WebFOCUS リポジトリの作成	チェック		
WebFOCUS 管理者ユーザ名	-	admin	
WebFOCUS 管理者パスワード	-	admin	
Apache Tomcat を スタンドアロンとして構成	チェックしない		※要件に合わせて変更可
Microsoft IIS 用 Apache Tomcat コネクタ構成	チェック	80	※要件に合わせて変更可

WebFOCUS 8.2

インストールするコンポーネントを選択してください。

以下はインストール可能なコンポーネントの一覧です。

☒ WebFOCUS

メールサーバホスト名: localhost

アプリケーションパスの選択: C:\ibi\apps

☒ ReportCaster Distribution Server

☒ Apache Tomcat 9.0.58 C:\ibi\tomcat

☐ Derby 10.14.2.0

既存データベースの構成:

データベースが実行中の必要があります。データベースが停止中の場合は、開始してください。

Oracle

WebFOCUS リポジトリの構成:

☒ WebFOCUS リポジトリの作成 (既存のテーブルは削除されません。)

WebFOCUS 管理者認証情報

ユーザ名: admin

パスワード: ●●●●●●

パスワードの確認: ●●●●●●

Tomcat の構成:

☐ Apache Tomcat 9.0.58 をスタンドアロンとして構成

☒ Microsoft IIS 用 Apache Tomcat 9.0.58 コネクタ構成 HTTP ポート: 80

InstallAnywhere

9. データベースの構成画面で下記のように入力し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
データベースサーバノード	-	データベースのホスト名 または IP アドレス	※導入環境に合わせて指定
ポート	-	データベースの TCP ポート	※導入環境に合わせて指定
ユーザ ID	-	データベースのオーナーID	※導入環境に合わせて指定
パスワード	-	データベースのオーナーID パスワード	※導入環境に合わせて指定
JDBC ドライバ	-	例) oracle.jdbc.OracleDriver などデフォルト設定値を使用	※変更しないでください
JDBC パス	-	利用する jdbc ドライバの パス	※導入環境に合わせて指定

データベースの種類により、上記に加え SID 名、データベース名、データベース URL 等を設定する必要があります

WebFOCUS 8.2

データベースの構成 - Oracle

WebFOCUS

- ✓ WebFOCUS によるこそ
- ✓ ライセンス契約
- ✓ インストールの種類を選択
- ✓ ライセンスキー
- ✓ インストールセットの選択
- ✓ プログラムフォルダの選択
- ✓ インストール先フォルダの選択
- ✓ インストールするコンポーネントの選択
- データベースの構成
 - 高度な構成
 - インストール前の確認
 - インストール中...
 - 確認ユーティリティの実行
 - インストールの完了

データベースサーバノード: dbserver

ポート: 1521

ユーザ ID: WF

パスワード: ●●●●●●

ORASID: orcl

JDBC ドライバ: oracle.jdbc.OracleDriver

JDBC パス: C:\ibm\jdbc\ojdbc8.jar

参照...

InstallAnywhere

キャンセル

戻る(P)

次へ(N)

10. 「高度な設定」画面で下記のように入力し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
WebFOCUS アプリケーション コンテキスト	-	ibi_apps	※変更しないでください
WebFOCUS Reporting Server ホスト	-	localhost	※要件に合わせて変更可
WebFOCUS Reporting Server ポート	-	8120	※要件に合わせて変更可
Distribution Server ホスト	-	localhost	※要件に合わせて変更可
Distribution Server ポート	-	8200	※要件に合わせて変更可
Distribution Server の開始	チェックしない		※要件に合わせて変更可
Tomcat HTTP ポート	-	8080	※要件に合わせて変更可
Tomcat サーバシャットダウン ポート	-	8005	※要件に合わせて変更可
Tomcat AJP ポート	-	8009	※要件に合わせて変更可
Search Server ポート	-	8983	※要件に合わせて変更可

WebFOCUS 8.2 高度な構成

WebFOCUS によるインストールの完了

Web サーバ/Application Server のエイリアスとコンテキストの設定:

WebFOCUS アプリケーションコンテキスト: ibi_apps

WebFOCUS Reporting Server 情報:

WebFOCUS Reporting Server ホスト: localhost

WebFOCUS Reporting Server ポート: 8120

WebFOCUS ReportCaster 情報:

Distribution Server ホスト: localhost

Distribution Server ポート: 8200

☐ Distribution Server の開始

Web サーバ/Application Server ポート:

IIS HTTP ポート: 80 Tomcat HTTP ポート: 8080

Tomcat サーバシャットダウンポート: 8005 Tomcat AJP ポート: 8009

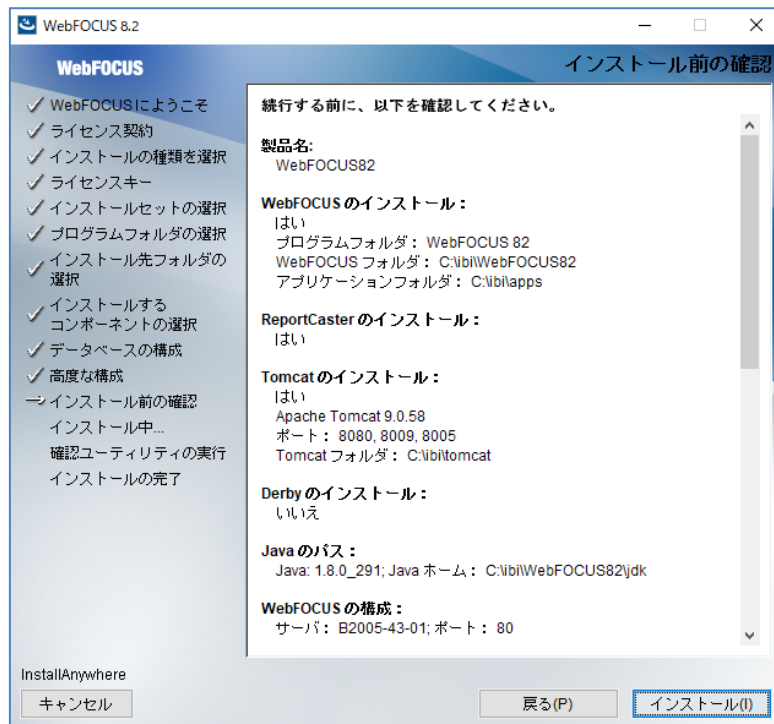
WebFOCUS Search Server:

Search Server ポート: 8983

InstallAnywhere

キャンセル 戻る(P) 次へ(N)

11. 「インストール前の確認」ウィンドウが開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストールが開始されます。



12. インストールの完了後、Application Server と Web サーバ、WebFOCUS Reporting Server を開始します。

以上で WebFOCUS Client のインストールは終了です。

WebFOCUS Reporting Server の更新インストール

【事前確認】

更新インストールを行う前に、障害にそなえて WebFOCUS を構成しているシステムのイメージバックアップ、およびリポジトリ（WebFOCUS Client と Resource Analyzer のリポジトリ）のバックアップをあらかじめ取得してください。万が一、更新インストール処理に失敗した場合、もしくは更新インストール後になんらかの障害が発生した場合は、システムのイメージバックアップから切り戻しを行ってください。

システムのイメージバックアップを取得できない場合は、本番環境とは別の検証用の環境で正常に適用できるか十分な確認を行ってから本番環境に適用することをご検討ください。

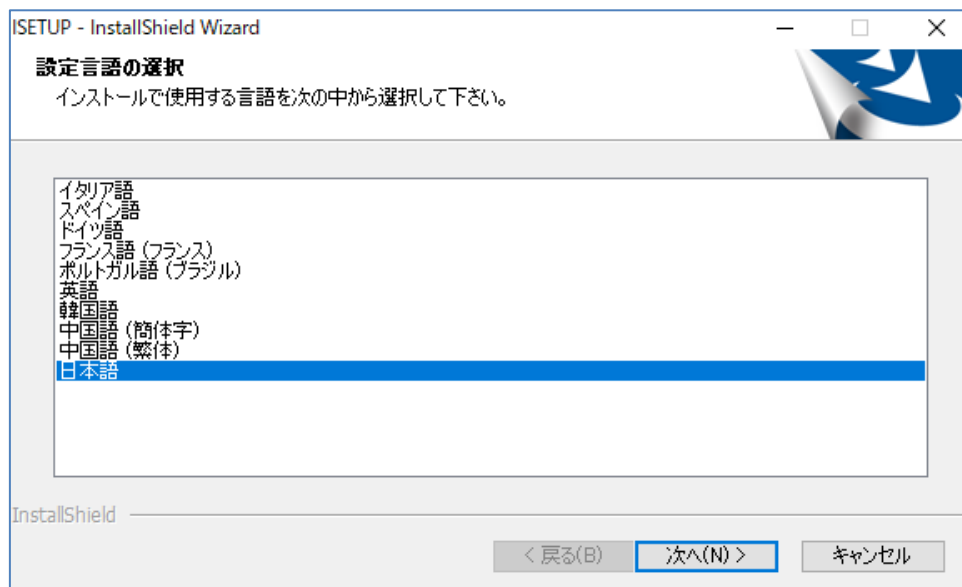
WebFOCUS Reporting Server を更新インストールする前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

例：C:\ibi\srv82

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server の更新インストールを行ってください。

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを停止します。
2. IBI¥64bit¥Server ディレクトリにある [setup.exe](#) をダブルクリックします。
3. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「次へ」をクリックします。



4. 以下の画面が表示されたら、【事前確認】で確認した Reporting Server インストールディレクトリ内の対象サーバを選択し、「次へ」を選択します。

以前のインストールが見つかりました。処理を選択してください。

インストールするリリース: M728728D gen 2161 08/21/2022 03:08:57

以前のインストールが見つかりました -

M728728D gen 2158 04/22/2022 07:58:06 C:\ibm\svr82\home

以前のインストールの詳細:
WebFOCUS 82 Server
リリース M728728D gen 2158 04/22/2022 07:58:06
Installation 6-23-2022 17:28:44

☒ 選択したインストールを更新
☐ 新規のインストールと構成を作成

空き領域情報

ディスク: C: 37440 MB

続行に必要な最小ディスク領域:
3 MB - C ディスク (一時領域)
4180 MB - 選択したディスク
セットアップ終了後の実際の領域はこれより少なくなることがあります。

次へ(N) > キャンセル

5. メッセージに従って更新インストールを完了します。

以上で WebFOCUS Reporting Server の更新は終了です。

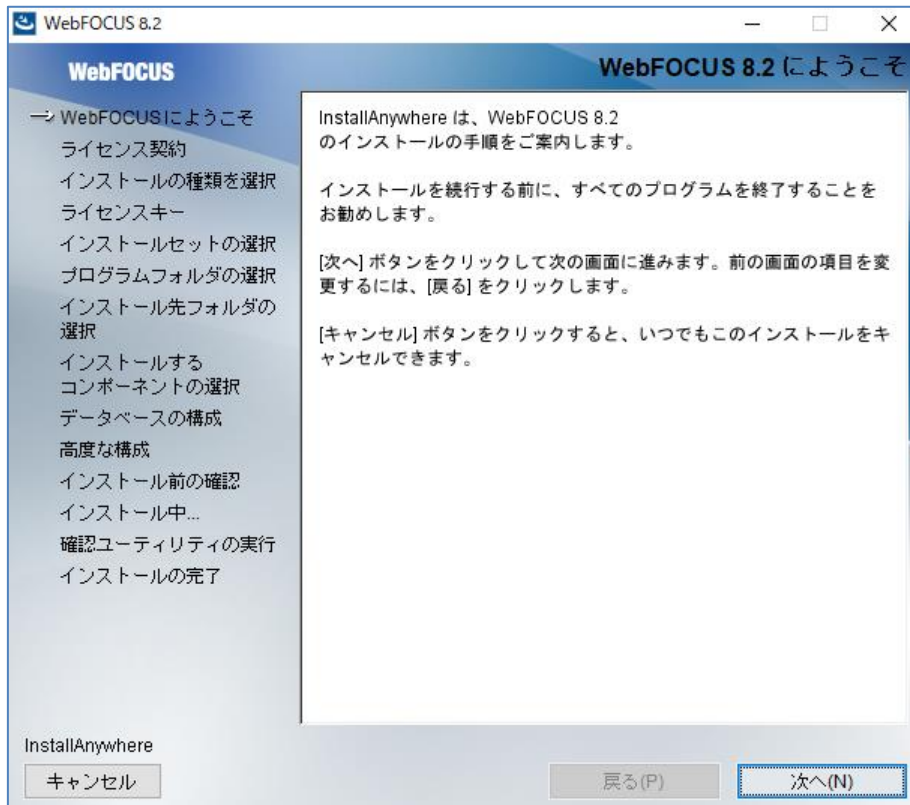
WebFOCUS Client の更新インストール

以下の手順で WebFOCUS Client を更新インストールします

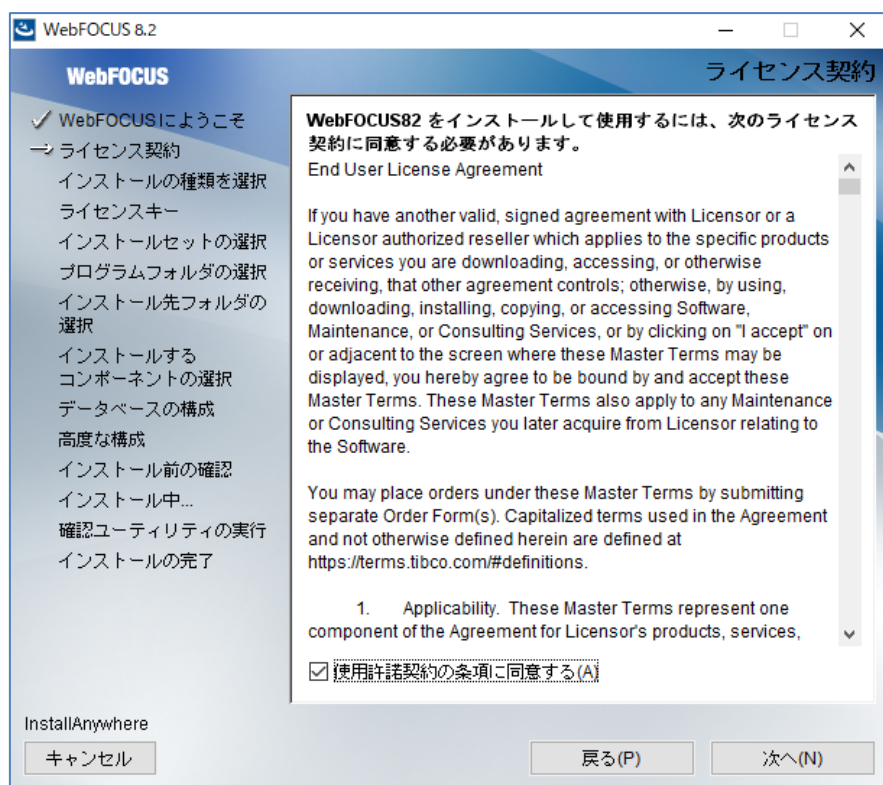
1. Application Server と Web サーバのサービスを停止します。
2. WebFOCUS Reporting Server、ReportCaster、Search Server のサービスを停止します。
3. **IBI¥64bit¥Client** ディレクトリにある **TIB_wf-wf_8207.28.13_win_x86_64.exe** をダブルクリックします。
4. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。



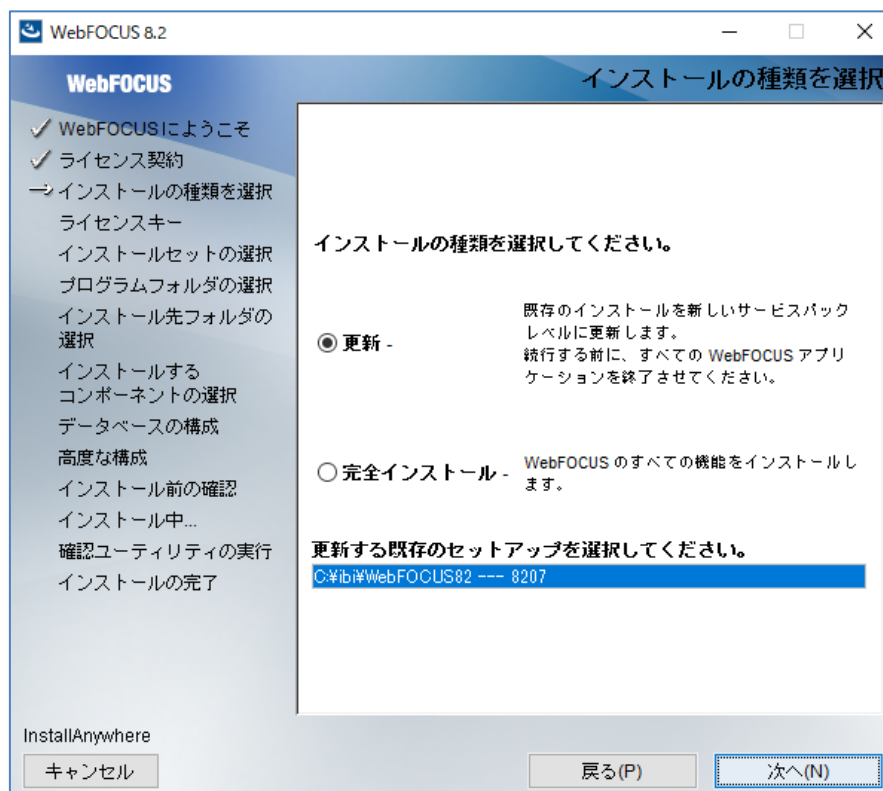
5. 「WebFOCUS 82 によるこそ」画面が開きますので、「次へ」をクリックします。



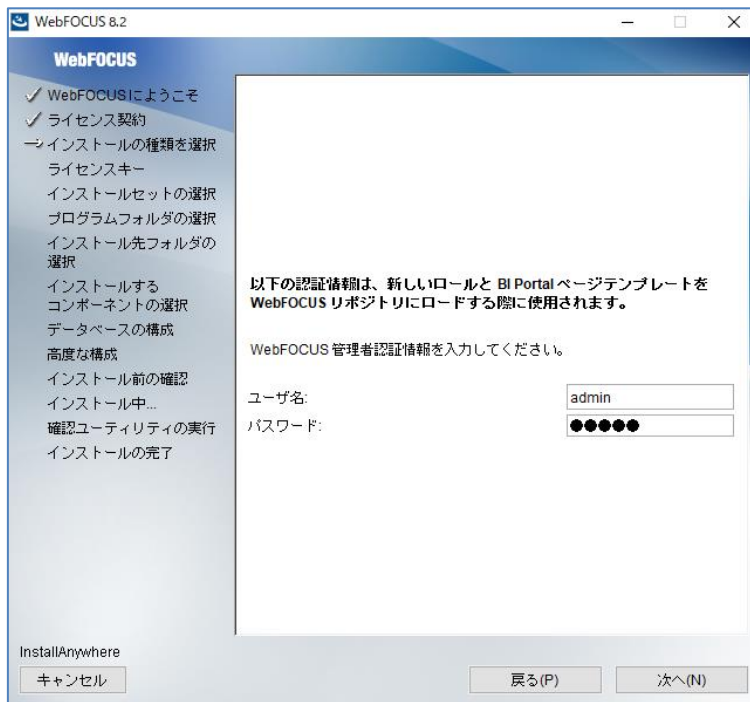
6. 「ライセンス契約」画面が開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックし、「次へ」をクリックします。



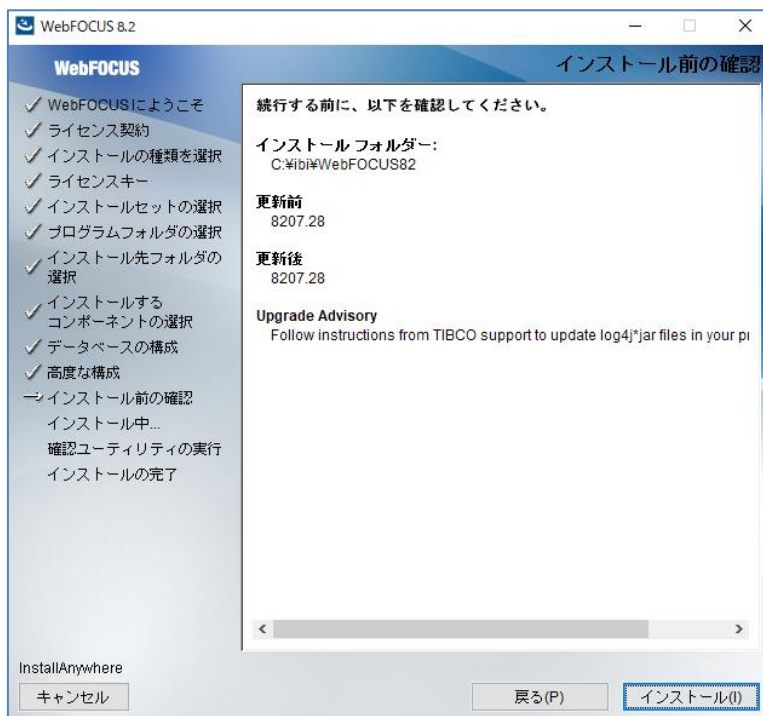
7. 「インストールの種類を選択」画面が開きますので、「更新」のラジオボタンを選択し、「次へ」をクリックします。



8. WebFOCUS 管理者認証情報を入力し、「次へ」をクリックします。



9. 「インストール前の確認」画面が開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。更新インストールが開始されます。



10. 更新インストールの完了後、WebFOCUS Reporting Server、ReportCaster、Search Server のサービスを開始します。

11. Application Server と Web サーバのサービスを開始します。

以上で WebFOCUS Client の更新は終了です。

WebFOCUS Client パッチの適用

【事前確認】

メンテナンスリリース 8.2.07.28.13 では、追加のパッチ適用が必要となります。

パッチを適用する前に WebFOCUS をインストールしたディレクトリを確認してください。

【WebFOCUS インストールディレクトリ】

例：C:\ibi

以下の手順で WebFOCUS Client パッチの適用を行ってください。

1. Application Server を停止します。
2. インストールメディア、もしくはインストールモジュールフォルダ内の **IBI\64bit\Client** の **HF002** フォルダを WebFOCUS インストールディレクトリ直下にコピーします。 **drive:\ibi\HF002\hf002.bat** をダブルクリックし、実行します。
3. 実行すると、WebFOCUS Client インストールディレクトリの選択が求められます。インストールディレクトリに対応する番号を入力し、エンターキーを押下してください。

*****ibi ディレクトリを選択してください*****

[1] : c:\ibi

[2] : d:\ibi

[3] : e:\ibi

[4] : それ以外

ibi ディレクトリのパスを上記の番号より選択してください

例：1 (インストールディレクトリが C:\ibi の場合)

※4 の場合は 4 を入力し、Enter キーを押した後ディレクトリを直接指定してください。

例：f:\ibi (インストールディレクトリが F:\ibi の場合)

4. 以下のメッセージが表示されたら、エンターキーを押下して終了します。

WebFOCUS 8207.28.13 HF-002 が適用されました。

続行するには何かキーを押してください . . .

5. Application Server を起動します。
6. ブラウザのキャッシュを削除します。

注意：パッチ適用前ファイルはバックアップフォルダ、ibi\HF002\Client\backup に保存されます。

以上で WebFOCUS Client パッチの適用は終了です。

Tomcat AJP ポートの有効化

WebFOCUS を IIS + Tomcat 構成で利用する場合には、Tomcat で AJP Connection ポート（8009）を有効化しておく必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

【事前確認】

Tomcat スタンドアロン構成の場合は、この手順は必要ありません。

1. drive:¥ibi¥tomcat¥conf¥server.xml をテキストで開きます。
2. AJP Connection ポート（8009）のコメントアウト指定を削除し、有効化します。

<Connector protocol="AJP/1.3" />の前後の <!-- と --> がコメントアウトの指定です
<!--の行と、-->の行を削除してください

指定例：

```
<Connector protocol="AJP/1.3"
    address="localhost"
    port="8009"
    redirectPort="8443"
    secretRequired="false"
    allowedRequestAttributesPattern=".*"
    maxPostSize="-1" />
```

3. 設定後、ファイルを保存して閉じます。

通貨記号と日付の日本語表示設定

通貨記号(円)の設定、日付の日本語表示設定

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを起動します。

2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明：

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

3. 上部ツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[サーバプロファイル - edasprof.prf]を右クリックし、[編集]を選択します。

4. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下の 2 行の SET コマンドを指定し、[保存]ボタンをクリックします。

SET CURRSYMB = JPY

SET DATEOUTPUT=LOCALIZED

補足：

OS のシステムロケールが日本語に設定されている場合に WebFOCUS Reporting Server のインストール時に[システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成]を選択すると以下の設定が自動で設定されます。

SET LANGUAGE=JAPANESE

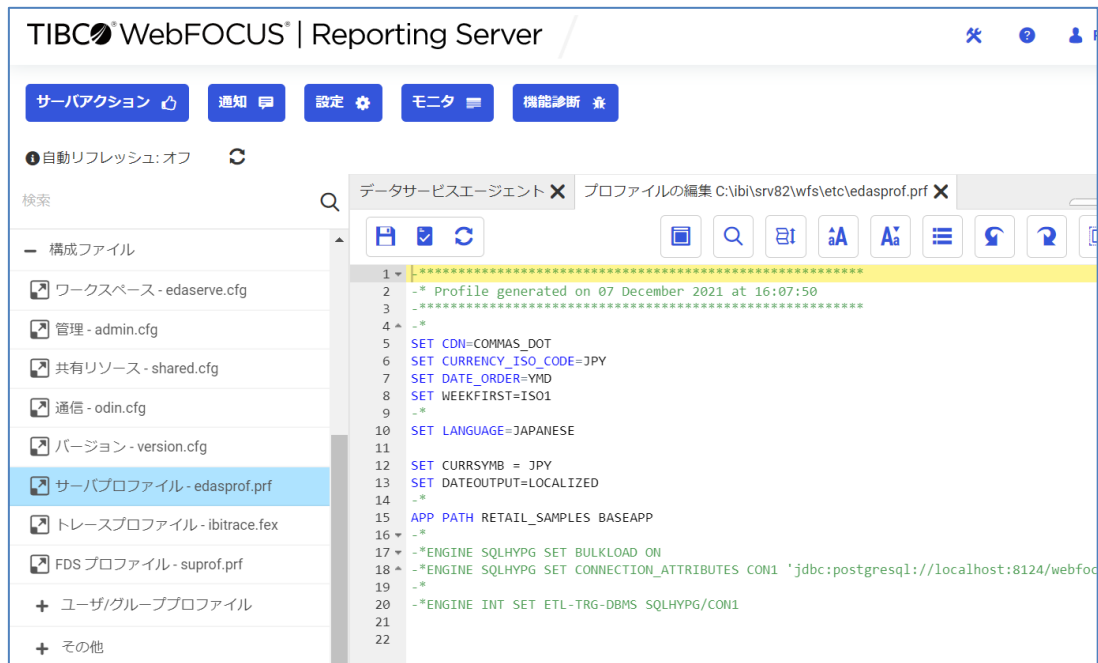
SET CDN=COMMAS_DOT

SET CURRENCY_ISO_CODE=JPY

SET DATE_ORDER=YMD

SET WEEKFIRST=ISO1

サーバプロファイル - edasprof.prf に上記の設定が無い場合は、上記の SET コマンドを指定してください。



以上で通貨記号と日付の日本語表示設定は終了です。

WebFOCUS の Unicode 構成

【事前確認】

WebFOCUS を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

WebFOCUS Reporting Server の CODE_PAGE の変更

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明：

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 左のメニューから[ワークスペース]を選択し、画面上部の [設定] - [LOCALE] - [構成ウィザード]を選択します。
3. CODE_PAGE プルダウンリストから[65001-Unicode(UTF-8)]を選択します。
4. [NLS ファイルを再作成/保存してサーバを再起動]をクリックします。



WebFOCUS Client の CODE_PAGE の変更

1. WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。

`http://hostname:port/ibi_apps/admin`

説明：

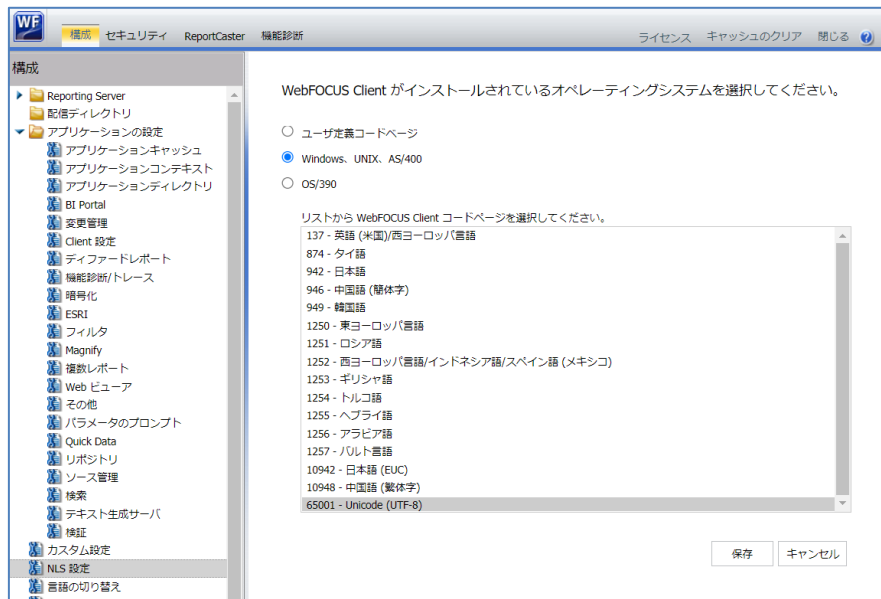
hostname:port

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは hostname:8080 です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

2. ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。
管理コンソールが開きます。
3. メニューから[アプリケーションの設定] - [NLS 設定]を選択します。

4. コードページ[65001-Unicode(UTF-8)]を選択し、[保存]をクリックします。
5. 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。



Tomcat の Unicode 構成

Tomcat を Unicode で起動するために以下の設定を行ってください。

注意： 以下は、WebFOCUS Client と共にインストールされた Tomcat 9.0.58 での手順です。

1. [スタートメニュー] - [すべてのプログラム] - [Information Builders] - [Tomcat]の[Tomcat 構成ユーティリティ]を選択します。
2. [Java]タブを選択します。
3. [Java options:]に以下のコマンドを指定します。
-Dfile.encoding=UTF8
4. [適用]をクリックし、Tomcat を再起動します。

以上で WebFOCUS の Unicode 構成は終了です。

ReportCaster の Unicode 構成

【事前確認】

ReportCaster を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

Distribution Server をコマンドラインから起動するか、サービスから起動するかで設定方法が異なります。

Distribution Server をコマンドラインから起動する場合

1. drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥bin¥schbkr.bat をテキストで開きます。

2. 以下の設定を追加します。

`-Dfile.encoding=UTF8`

指定例：

```
call %~dp0¥classpath.bat
"C:¥ibi¥WebFOCUS82¥jdk¥bin¥java" -Dfile.encoding=UTF8
-Dreportcaster.home=%DSINSTALL%
-Dlog4j.configurationFile=file:///¥DSINSTALL%/cfg/log4j2.xml -Dcaster.service=false
-cp "%CLASSPATH%" ibi.broker.SCHScheduler %DSINSTALL% %CMD_LINE_ARGS%
pause
```

3. 設定を追加後、ファイルを保存して閉じます。

4. Application Server を再起動します。

5. [スタート] – [すべてのプログラム] – [Information Builders] – [WebFOCUS 82] – [ReportCaster] – [Distribution Server] – [Distribution Server の開始]を選択します。

Distribution Server をサービスから起動する場合

1. [スタート]メニューをクリックします。

2. [ファイル名を指定して実行]を選択します。

3. [regedit]と入力し[OK]をクリックします。

レジストリエディターが開きます。

4. 以下のキーを右クリックし、[修正]を選択します。

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥Apache Software Foundation¥
Procrun 2.0¥WF82¥Parameters¥Java¥Options]

5. 以下の設定を追加し、[OK] をクリックします。

`-Dfile.encoding=UTF8`

6. Application Server を再起動します。

7. サービスを開き[WebFOCUS ReportCaster WF82]を右クリックし、[開始]を選択します。

以上で ReportCaster の Unicode 構成は終了です。

ReportCaster のレジストリパラメータ設定

WebFOCUS 8.2.07 を更新インストールした場合、ReportCaster Distribution Server をサービスから起動する際に参照するレジストリの設定情報が初期化されます。レジストリで Java の文字コード、最小ヒープサイズ、最大ヒープサイズ等の設定をしていた場合はパラメータ値を再設定する必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. [スタート]メニューをクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行]を選択します。
3. [regedit]と入力し[OK]をクリックします。

レジストリエディターが開きます。

4. 以下のキーを展開します

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥Apache Software Foundation¥
Procrun 2.0¥WF82¥Parameters¥Java¥Options]

5. [Options](文字コード等)、[JvmMs](最小ヒープサイズ)、[JvmMx](最大ヒープサイズ)等のパラメータを右クリック、[修正]を選択します。値を設定し、[OK] をクリックします。
6. Application Server を再起動します。
7. サービスを開き[WebFOCUS ReportCaster WF82]を右クリックし、[開始]を選択します。

以上で ReportCaster のレジストリパラメータ設定は終了です。

Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

Resource Analyzer 用の日本語パッチは WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリに適用します。日本語パッチを適用する前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ:

例 : C:\ibi\srv82

注意 : 日本語パッチを適用する際は、WebFOCUS Reporting Server を必ず停止してください。

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

64bit¥Server¥patch_8207s

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

パッチファイルの実行

1. 文字コード環境(SJIS, Unicode)に該当するパッチファイルをダブルクリックします。

(SJIS の場合) [ra_sjis.bat](#)

(Unicode の場合) [ra_utf8.bat](#)

2. 表示されるプロンプトで、WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを選択し、Enter キーを押します。

Resource Analyzer の構成

注意 : WebFOCUS 8.2.07 からは、Resource Analyzer の構成時には、「Resource Governor」と「Resource Analyzer」を選択することができますが、「Resource Analyzer」を選択してください。

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明 :

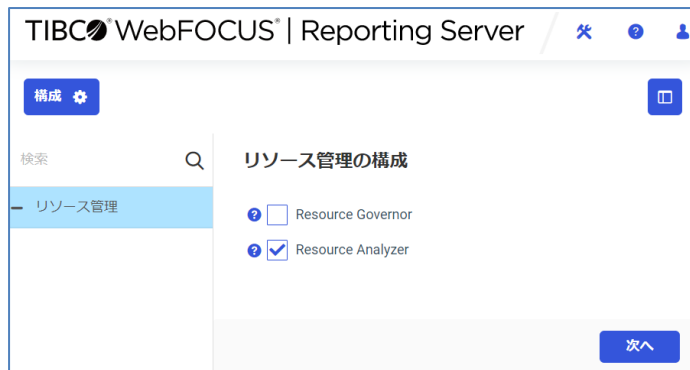
hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 画面上部のツールメニューから[リソース管理]を選択します。
3. [構成]ボタンをクリックします。
4. 「Resource Governor」と「Resource Analyzer」の選択画面が表示されますので、ラジオボタンで「Resource Analyzer」を選択し、以降の設定を行ってください。



以上で Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成は終了です

オンラインヘルプの構成

WebFOCUS 8.2.07 を利用する前に、オンラインヘルプの構成が必要です。更新インストールの場合も実施する必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

【事前確認】

オンラインヘルプを適用する前に WebFOCUS Client をインストールしたディレクトリを確認してください。

【WebFOCUS Client インストールディレクトリ】

例：C:\ibi\WebFOCUS82

注意： オンラインヘルプを適用する際は、Apache Tomcat を必ず停止してください。

オンラインヘルプファイルが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

IBI64bitClient

オンラインヘルプの構成

1. Tomcat のサービスを停止します。
2. インストールメディア、もしくはインストールモジュールフォルダ内の IBI64bitClient に同梱されている、オンラインヘルプファイル ibi_help.war を drive:\ibi\WebFOCUS82\webapps 直下へコピーします。
3. drive:\ibi\tomcat\conf\Catalina\localhost\ibi_help.xml をテキストで開きます。

※ibi_help.xml が無い場合には新規で作成してください

4. 以下のように設定します。

※C ドライブ以外の場合は環境に合わせて変更してください

指定例：

```
<?xml version='1.0' encoding='utf-8'?>
<Context docBase="C:\ibi\WebFOCUS82\webapps\ibi_help.war" path="/ibi_help"
useHttpOnly="true">
</Context>
```

5. 設定後、ファイルを保存して閉じます。
6. drive:\ibi\tomcat\work\Catalina\localhost を削除します。
7. Tomcat のサービスを開始します。

8. WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。

`http://hostname:port/ibi_apps/admin`

説明：

`hostname:port`

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは `hostname:8080` です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

9. ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。

10. 管理コンソールが開きます。

11. メニューから[アプリケーションの設定] – [アプリケーションコンテキスト]を選択します。

12. [ヘルプ]に「/ibi_help」と入力し、[保存]をクリックします

13. 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。

Hyperstage の無効化

WebFOCUS 8.2.07 を新規にインストールした場合、Hyperstage の無効化が必要です。以下の手順に従って設定を進めてください。

【事前確認】

以前のバージョンで Hyperstage を未導入、もしくは無効にしている環境に対して WebFOCUS 8.2.07 を更新インストールする場合は、この手順は必要ありません。

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを起動します。

2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明：

`hostname`

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

`port`

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

3. 上部ツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[通信-odin.cfg]を右クリック、[編集]を選択します。
4. 表示される編集画面で、以下の HyperStage Database Server の指定をコメントアウトします。

```
;HyperStage Database Server
;NODE = HSSU
;BEGIN
;PROTOCOL = TCP
;CLASS = HSSERVER
;END
```

5. 設定後、保存し、再起動します。
6. 画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[ワークスペース-edaserve.cfg]を右クリック、[編集]を選択します。
7. 表示される編集画面で、以下の指定をコメントアウトします。

```
[Adapters]
;hypg_data = C:¥ibi¥HyperstagePG
;hypg_access = y
;hypg_home = C:¥ibi¥srv82¥home¥hs
;hypg_tools = C:¥ibi¥srv82¥home¥hs¥bin
```

8. 設定後、保存し、再起動します。

9. 上部ツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[サーバプロファイル - edasprof.prf]を右クリック、[編集]を選択します。

10. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下の指定をコメントアウトします。

```
-*ENGINE SQLHYPG SET BULKLOAD ON  
-*ENGINE SQLHYPG SET CONNECTION_ATTRIBUTES CON1  
'jdbc:postgresql://localhost:8124/webfocus'/admin,{AES}C4C9965503D50222144F289FF131  
5F2C  
-*ENGINE INT SET ETL-TRG-DBMS SQLHYPG/CON1
```

11. 設定後、保存します。

12. WebFOCUS Reporting Server のサービスを再起動します。

既存コンテンツのインデックス化

WebFOCUS 8.2.06 以前から更新インストールした場合、リポジトリに登録されたコンテンツを 8207 では検索できません。検索対象とするためには、既存コンテンツのインデックス化が必要です。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. WebFOCUS ホームページに管理者でログインし、ワークスペースで管理者ビューに切り替えます。



2. Web サービスページを開きます。

`http://hostname:port/ibi_apps/rs?IBIRS_action=TEST`

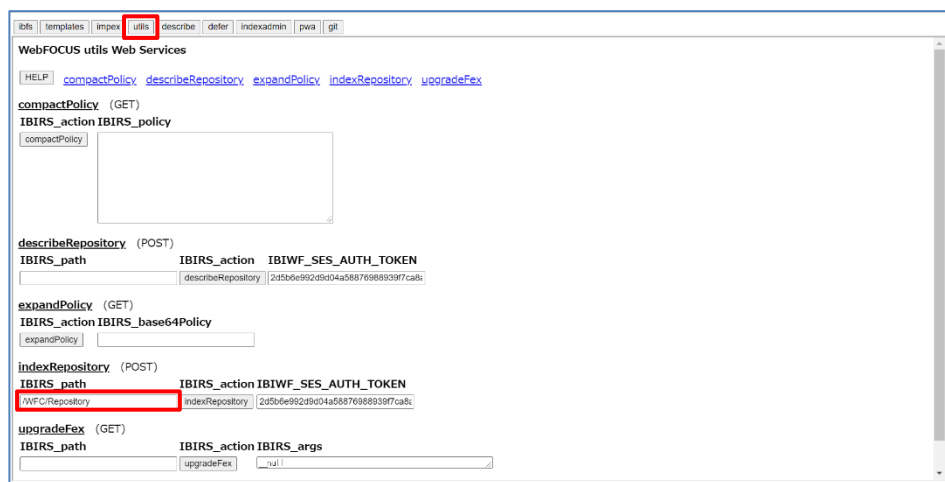
説明：

hostname:port

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは hostname:8080 です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

3. Web サービスページの [utils] ボタンをクリックし、[indexRepository/IBIRS_path] テキストボックスに、/WFC/Repository と入力します。

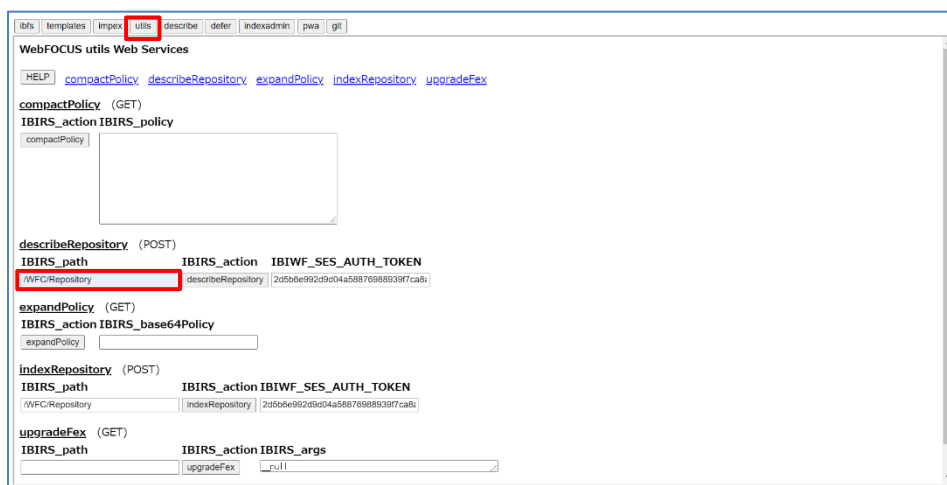


4. [indexRepository] をクリックして、処理を終了します。

新しいウィンドウセッションが開き、実行結果が表示されます。以下のコードはその例です。

```
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="ja_JP" name="indexRepository"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_path" value="/WFC/Repository"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="string" value="Indexer Count of paths indexed:573"/>
</ibfsrpc>
```

5. Web サービスページの[utils] ボタンをクリックし、[describeRepository/IBIRS_path] テキストボックスに、/WFC/Repository と入力します。



6. [describeRepository] をクリックして、処理を終了します。

新しいウィンドウセッションが開き、実行結果が表示されます。以下のコードはその例です。

```
<ibfsrpc _jt="IBFSResponseObject" language="ja_JP" name="describeRepository"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">
  <ibfsparams size="1">
    <entry key="IBIRS_path" value="/WFC/Repository"/>
  </ibfsparams>
  <rootObject _jt="string" value="Processed count: 219. Described count: 212. Have
parameters count: 63. Non writable files skipped: 0"/>
</ibfsrpc>
```

7. WebFOCUS 管理コンソールのメニューバーの [キャッシュのクリア] をクリックし、確認メッセージで [OK] をクリックします。
8. WebFOCUS からログアウトし、再度 WebFOCUS にログインします。

以上で既存コンテンツのインデックス化は終了です。

WebFOCUS App Studio の新規インストール

【事前確認】

WebFOCUS App Studio は更新インストールが不可です。新規インストールを実施してください。

以前のバージョンをインストールしている場合、該当バージョンのインストールガイドに従ってアンインストールを行ってください。

WebFOCUS App Studio は OS の管理者権限を持つユーザでインストールを実施してください。

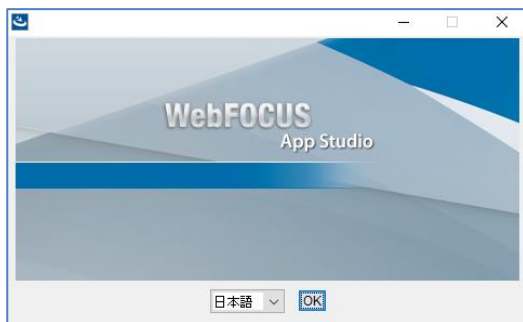
WebFOCUS App Studio は下記ディレクトリにインストールします。C ドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストール先の選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS AppStudio インストールディレクトリ】

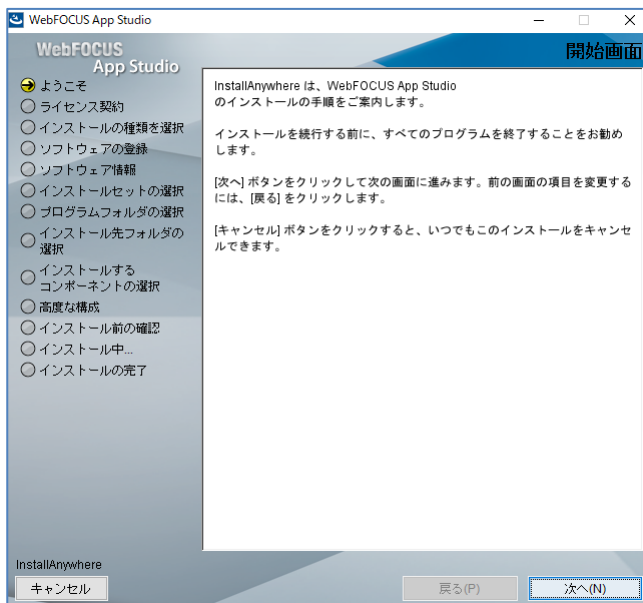
例 : C:\ibi¥AppStudio82

以下の手順で WebFOCUS App Studio のインストールを行ってください。

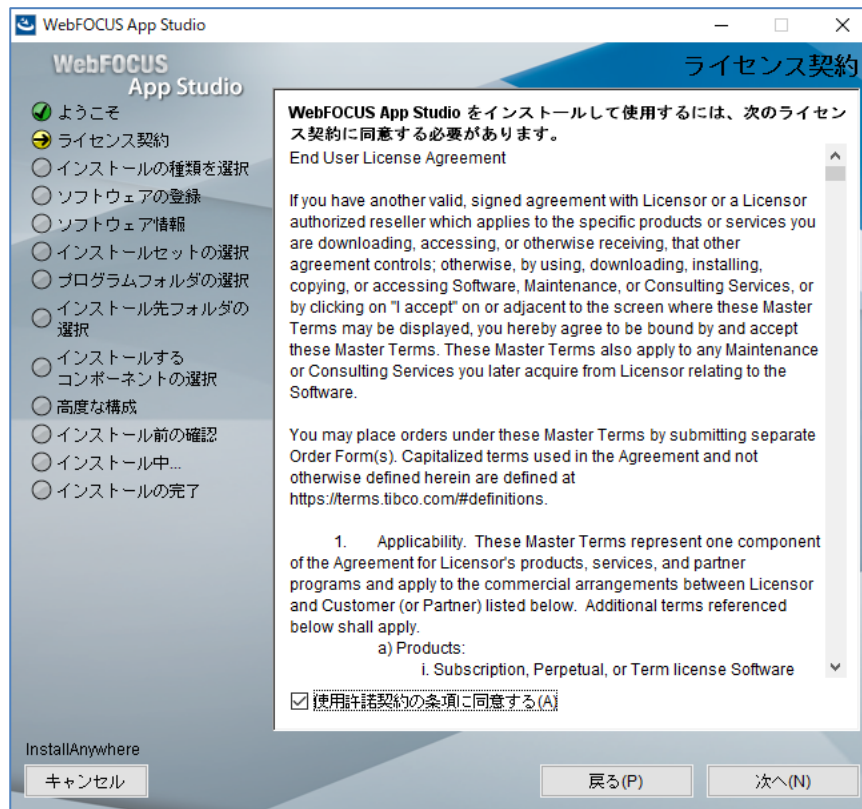
1. IBI¥64bit ディレクトリにある TIB_wf-as_8207.28.13_win_x86_64.exe をダブルクリックします。
2. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。



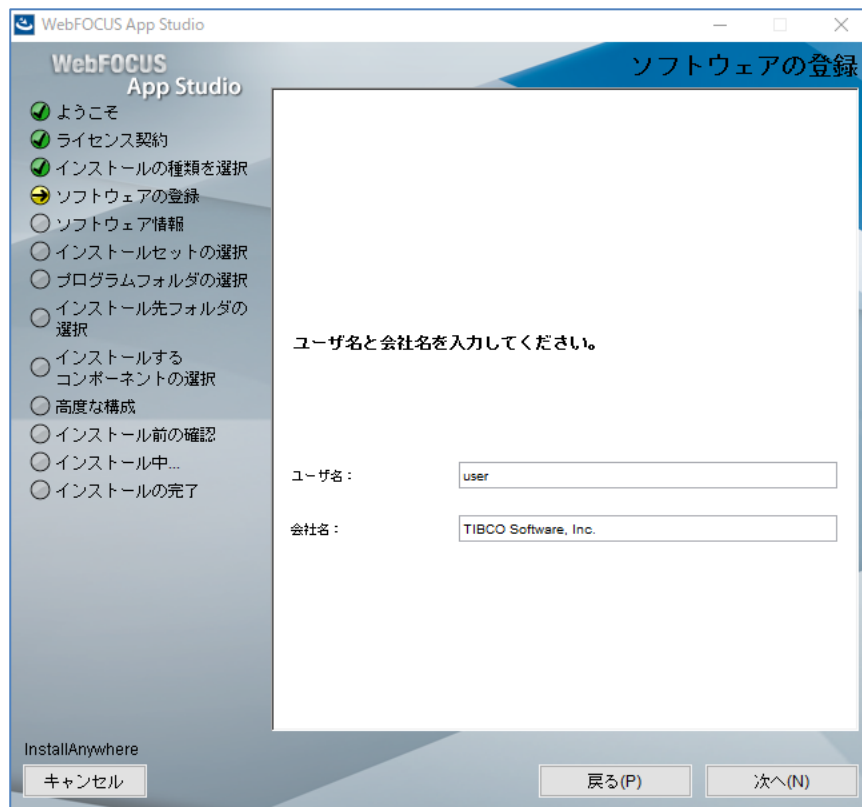
3. インストールの開始画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



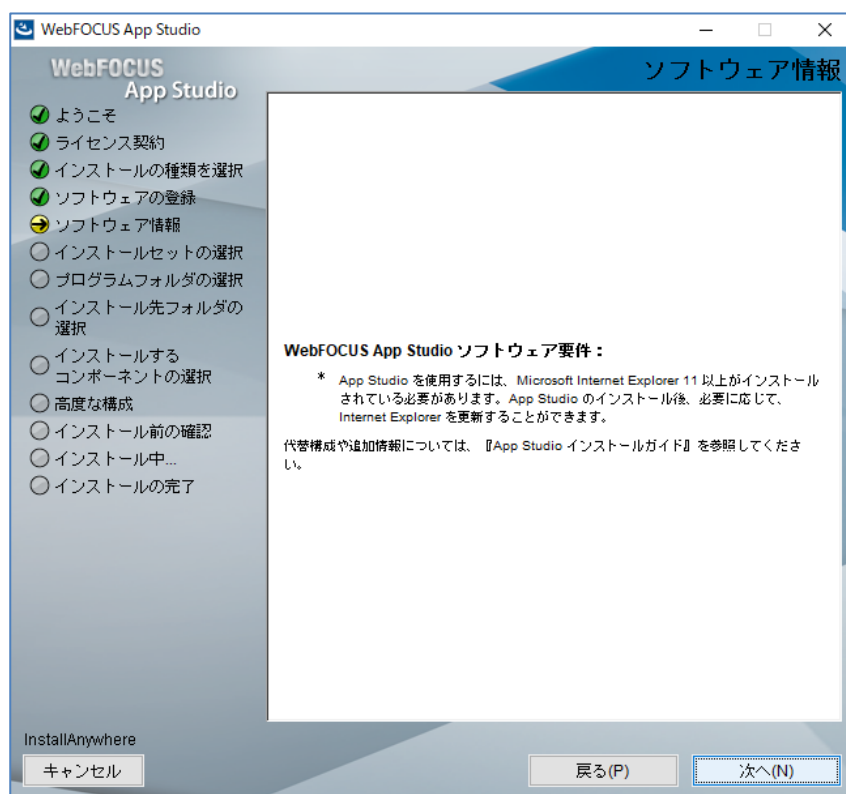
4. 「ライセンス契約」画面が開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



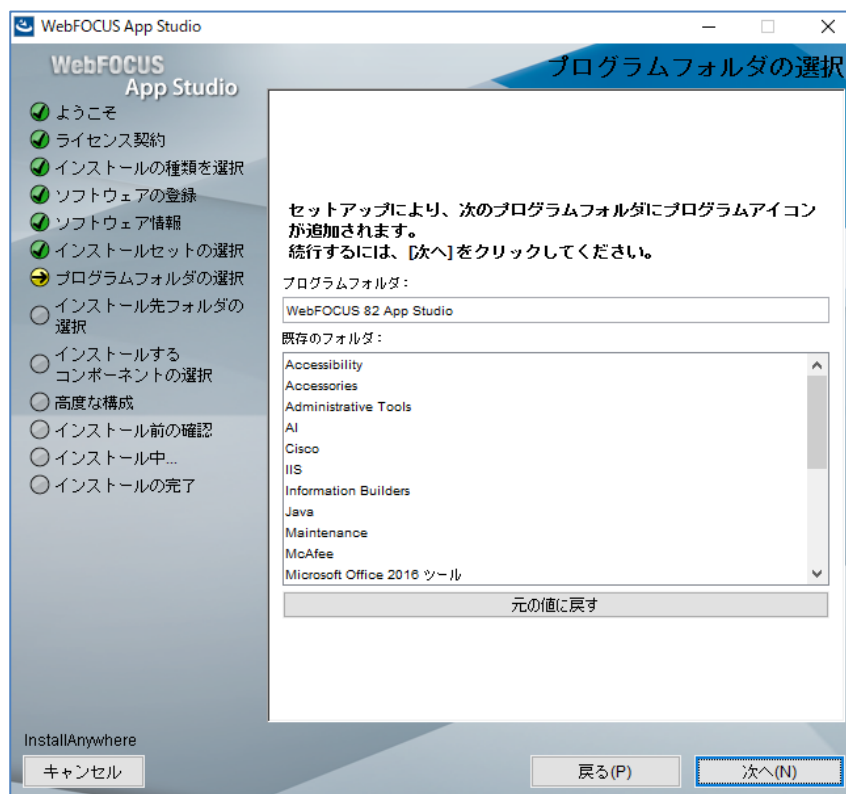
5. 「ユーザ名」と「会社名」を入力し、「次へ」をクリックします。



6. 「ソフトウェア情報」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。

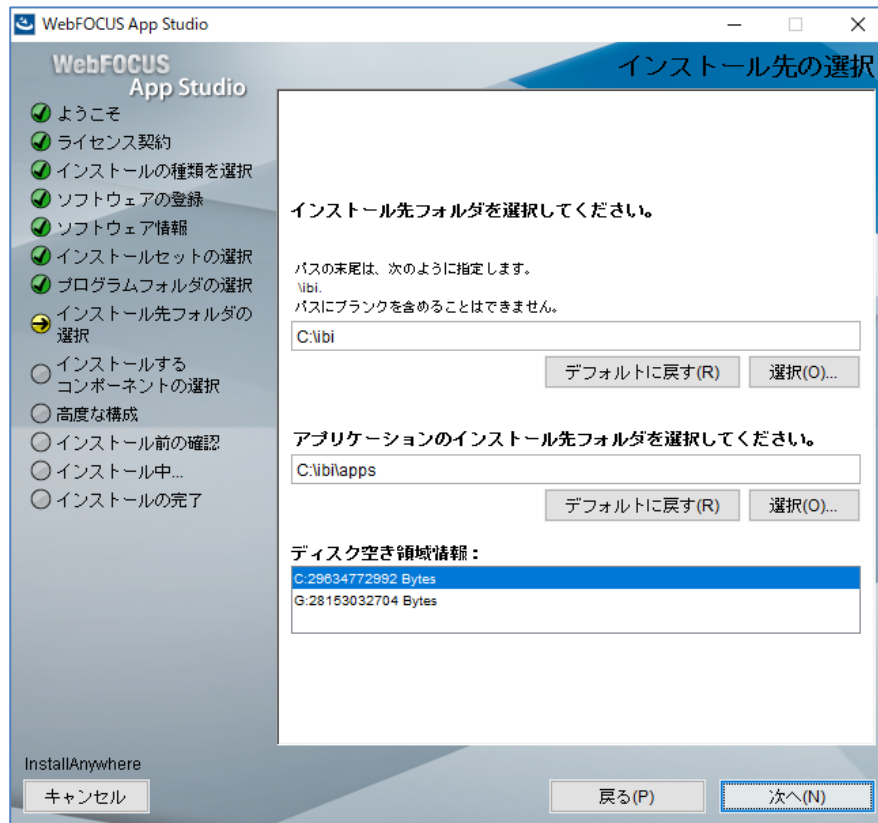


7. 「プログラムフォルダの選択」画面で、「次へ」をクリックします。



8. 「インストール先の選択」画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
インストール先フォルダ		C:\ibi	※要件に合わせて変更可
アプリケーションの インストール先フォルダ		C:\ibi\apps	※要件に合わせて変更可



9. 「インストール前の確認」画面が開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストールが開始されます。

10. 「インストールの完了」画面が開きますので、「完了」をクリックします。

以上で WebFOCUS App Studio のインストールは終了です。

メディアに同梱される Java バージョンについて

8.2.07.28 では Java (TM) SE Runtime Environment build1.8.0_291-b26 (8u291) が同梱されています。新規導入時は、インストールにより自動構成されます。

更新インストールにおいては ibi¥WebFOCUS82¥jdk 配下の Java は自動構成されますが、ibi¥tomcat¥jdk 配下の Java はバージョンアップされませんので、必要に応じて当該バージョンの Java をインストールしてください。

また、8.2.07.28 からは、これまでのバージョンでの Java 導入先である drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥jre から drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥jdk へのインストールへと変更になっています。

更新インストールを行うと、旧バージョンの構成ファイル等で参照していた Java のパスを変更する必要がありますのでご注意ください。

Search Server のスクリプトファイル

(drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥Solr¥WF82SrhcSvc¥ibi_solr_service_cfg.ps1)

および、環境構成ファイル (drive:¥ibi¥srv82¥wfs¥bin¥edaenv.cfg) ※記述がある場合

については、更新インストール後に導入先パスを変更の上、ご利用ください。

メディアに同梱される Tomcat バージョンについて

8.2.07.28 では Apache Tomcat 9.0.58 が同梱されています。新規導入時は、インストールにより自動構成されます。

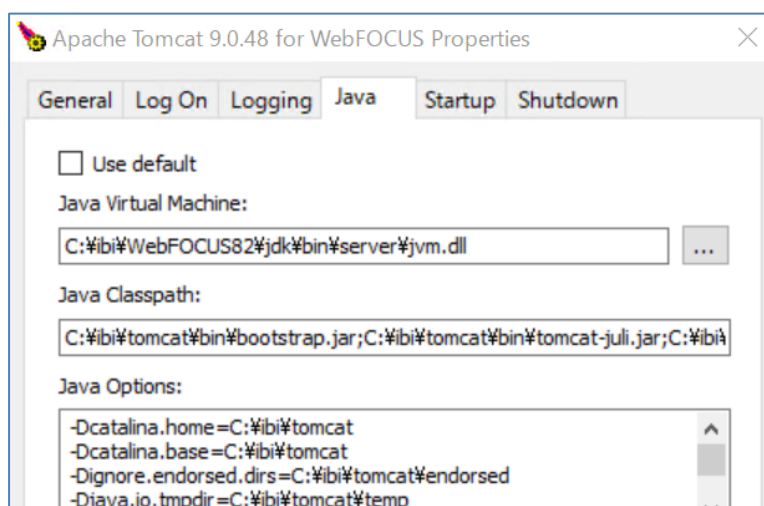
更新インストールにおいては Tomcat のバージョンアップはされませんので、必要に応じて当該バージョンの Tomcat をインストール・構成の上、ご利用ください。

Tomcat の JVM 参照先について

Tomcat の Java Virtual Machine 参照先は Tomcat 構成ユーティリティの Java タブで設定できます。必要に応じて変更の上、ご利用ください。

Tomcat 構成ユーティリティ起動方法：

1. [スタートメニュー] - [すべてのプログラム] - [Information Builders] - [Tomcat]の[Tomcat 構成ユーティリティ]を選択します。



WebFOCUS に使用する他社製コンポーネントについて

インストールプログラムには、Tomcat、Oracle JDK、Derby、Solr の他社製コンポーネントが含まれます。

導入後に発表された新たなセキュリティ上の脆弱性など一部の問題を解決するために、新しいバージョンへのアップグレード等別途対応が必要となる場合があります。

他社製コンポーネントのバージョンについての詳細は、『WebFOCUS リリースノート Version8.2.07』および各ベンダーサイトをご確認ください。

WebFOCUS リリースノートについて

『WebFOCUS リリースノート Version8.2.07.28』には利用される環境によって必要な設定および注意点が記載されています。WebFOCUS をご利用の前に必ずご一読ください。

リリースノートは AWSC（アシストサポートサイト）からダウンロードしていただくことができます。

以上